

経営発達支援事業報告書

【実施期間】 令和2年4月1日～令和7年3月31日

【目 標】 地域経済の現状を踏まえ、先ずは基幹産業である鯉節製造業を重点に小規模事業者へのニーズに対応した細やかで継続的な伴走型支援の実施体制の確立と中長期的には食資源を活用した交流人口増加への取り組み協力支援と地域外の需要に対する販路開拓等の支援を行い地域経済活性化に寄与し、地域経済の継続的な発展のために創業支援に関する協力体制の確立と支援体制の強化を図る。

【事業実施内容】

1. 経営発達支援事業

(1) 地域の経済動向調査に関すること。

経済動向調査や地域独自の問題解決に向けた課題を抽出する為の調査を実施するとしていたが実施できなかった。

(2) 経営状況の分析に関すること。

経営課題の抽出のための経営分析が十分に実施できなかったが、専門家派遣を実施し積極的に事業者の経営分析力向上を図り、経営支援の決算指導を通じて経営状況の把握と今後の経営課題について検討を行った。

(3) 事業計画策定に関すること。

事業者の事業計画策定支援については計画策定支援が十分に実施できなかったが、事業者の支援については巡回指導を実施し、各種支援金や補助金申請時に計画策定の支援を実施した。

(4) 事業計画策定後の実施支援に関すること

事業者の事業計画策定後のフォローアップについても十分な支援が実施できなかったが、事業者へは巡回指導を実施し、経営課題の解決に向けた経営支援を継続的に実施した。

(5) 需要動向調査に関すること

新商品開発に関する情報提供についても十分な支援が実施できなかったが、会議所報やメールマガジン等で各種情報提供を行った。

(6) 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

新たな需要開拓についても十分な支援が実施できなかったが、鹿児島県商工会議所連合会が主催するアンテナショップへの出展支援を実施しており、販路拡大に係る支援を行った。

2. 地域経済の活性化に資する取り組み

(1) 地域経済の活性化に資する取り組みに関すること

基幹産業の鰹節業者と市内の飲食店への支援として枕崎水産加工業協同組合の協力を頂き、毎月 24 日は『節の日』に鰹節の配布を行って特産品の PR と観光振興を実施しており、枕崎市通り会連合会とまくらざき朝市出店者協議会の協力のもと、新しい通り会グルメ『勝男武士カレー』の PR も実施して地域活性化に取り組んだ。

共通商品券の発行事業も継続実施しており、域内商工業者の販売促進と地域活性化に取り組んでおり、枕崎市と連携して各種事業にも共通商品券を採用していただいております、継続的に実施した。

(2) 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること。

本県においては中小企業支援機関を対象とする「中小企業支援機関連携推進会議」と「鹿児島県中小企業経営革新支援協議会」が設置されており、支援ノウハウ、支援の現状、支援スキルの向上、支援事例等について情報交換を行った。

経営革新等認定支援機関の定例会議等においても創業及び経営革新への取り組み事例、施策の活用方法、支援ノウハウ、支援の状況、専門家の活用状況について情報交換を行った。

(3) 経営指導員等の資質向上に関すること

①日本商工会議所や九州商工会議所連合会が主催する研修会への参加に加え、九州経済産業局が主催する研修会に参加することにより、支援能力の向上を図った。

②鹿児島県商工会議所連合会が主催する「経営指導員研修会」「経営支援員研修会」に参加し、支援の状況の情報収集を図り、支援ノウハウや支援スキルを修得した。

③中小企業大学校を活用し、時代に即した経営手法や専門知識を修得した。

④所内においても研修会を開催し、指導員、支援員間の情報共有を行い、支援力向上に努めた。

【事業総括】

令和２年４月から開始した本事業については当初想定していなかったコロナ禍による事業者の支援が影響し、実施できなかった事業も多く、計画していた本来の事業者への支援が十分実施できなかった。今後は事業者が抱える新たな経営課題の解決に向けた支援事業の拡充と域内事業者の経営改善と経営の安定に向けた支援を行うとともに経営革新に取り組む事業者への支援も継続的に実施し、小規模事業者の経営状況の分析と需要を見据えた事業計画の策定や事業実施に係る伴走型の指導を行って需要の開拓にも寄与できる事業を積極的に実施し、新事業展開や高付加価値化の支援など経営の発達に資する支援を行っていく。

【事業総括評価コメント】

1. 事業総括でも記載のある通り、想定外の事象（コロナ禍による地域内事業所への多大な影響）によって、緊急事態対応・セーフティネット優先の支援に大きく舵が切れ、本来の経営発達支援計画が実施できなかった前半期だったと思います。現在は比較的落ち着きを取り戻しているとはいえ、スタートダッシュが切れなかったことが後々まで影響を及ぼしていると思います。
2. 事業実施状況のご説明のなかで、支援に必要な資金面、マンパワーなどが今後の事業主体側の課題であるといわれる一方で、支援される事業所には関係ないこと等の意見がなされ、やはり先立つものがないと、支援に限界が生じてくるのも事実です。但し、伴走型補助金を活用したために、これまで以上に支援に係るマンパワーが必要となる二律背反も生じる可能性があり、是非、それらを十分にご検討いただき、地域の実情にあった経営発達支援計画をご立案いただきたいと存じます。
3. 今後も人口減少が予想され、生産性の向上に向けたDX推進と各団体との連携が重要であり、今後も継続的に取り組んでほしい。
4. コロナ禍で経営発達支援事業の実施がスムーズに進まなかったところもあるが、事業者への必要最小限の経営支援は実施されていたと思われる。商工会議所が実施する既存事業との連携も含めて、需要開拓、新規の商流を生むような取組や高付加価値化の支援等、同事業の充実を図られたい。